

第2号様式

令和6年2月5日

鈴鹿市議会議長

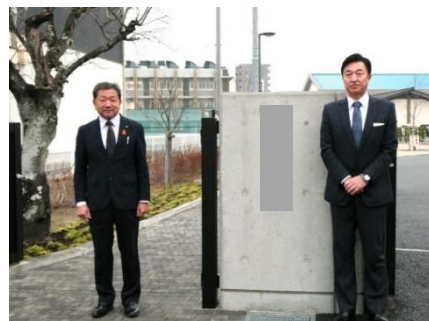
会派名 市民の声
代表者名 中西 大輔

視察研修等報告書

下記のとおり実施いたしましたので報告いたします。

記

- | | | |
|---|---------|-----------|
| 1 | 実施日 | 令和6年1月31日 |
| 2 | 参加者氏名 | 田中淳一 藤井栄治 |
| 3 | 視察先及び事項 | A市立B中学校 |
| 4 | 目的・内容 | |



建築後50年を超過する公共建築物が増加している中、建て替えや修繕が必要な小中学校が増加している。鈴鹿市では基準を設けて高寿命化改築を行い80年まで使用続けることとしているが、一部構造的に問題がある場合は、建て替え等を行っている。

今回視察した、A市立B中学校は、新築建て替えであるが、地域の公民館機能を併せ持つ施設として建て替えたものであり、コンセプト及び供用後の意見などを聞き取ることを目的とした。

5 成果・所感

主な説明事項

- A市においても、中学校の校舎更新は、大きな課題である。基本は、80年まで建物を高寿命化により改修しながら利用することを基本としている。ただし、建築後60年を超えている建物については、建替えることとし、市内11中学のうち2校を建替えることとした。その1校が鎌田中学校である。
- 当中学校の校舎総床面積は、7,028m²であり総工費44億円であった。総工費には、運動場が狭かったことから、運動場横にあった工場跡地を用

地買収しており、その金額も総工費に含んでいる。

- 校舎建築に要した経費は 24 億円である。補助事業で建設しており、公立学校施設整備費負担金（補助率 50%）・学校施設環境改善交付金（補助率 1/3）を活用している。なお本市は、合併特例事業債を当該中学校建設費のために残しており、充当率 95% の合併特例債を使っている。
- 生徒数は約 370 人であり、1 学年 4 クラスの 12 クラスであるが、各学年の 1 クラスは少人数クラスとして運用している。
- 当中学校は、中学校だけでなく、地域交流センター（市民センター・公民館機能）を併設しており、新しく建替える公共施設のモデルとして位置づけている。
- なお、A 市は、木材産業の市であるが、当中学校は、津波避難時避難ビルに指定しており、その構造的要件で、RC 又は SRC、S 造を基本としている。構造躯体を木造にすることは考えていなかった。
- 木材について床材は合板であるが、一部壁（腰板）は、松阪市産ヒノキを使用している。（特記仕様書で指定している。約 1,400m²）
- 環境面での工夫は、屋根部分に明かり取りとして三角形のガラスを施工しており、光熱費削減にも工夫している。
- 机の天板は、合板であるが、市内一部の中学校では、ヒノキを使用しているものもある。



【質疑応答】

質問１：B中学校の校区と自治会区域は重なっていますか？

回答： 概ね重なっています。

質問２：B中学校に市民センターが併設されています。市の指導ですか？

回答： B中学校のコミュニティスクールの理事が中心になり市に働きかけ、地域と中学生の連携を図るためにすすめることとなりました。

質問３：「こども応援隊」と「ご飯プロジェクト」を教えてください？

回答： B中学校では、コミュニティスクールの取組として、取組んでいます。こども応援隊は、色々な行事をする時に、地域住民の登録制ネットワークを構築しています。行事やイベントをする際に、お手伝いいただける住民が即座に把握できます。(LINE 等)
ご飯プロジェクトは、親子面談の際に、おにぎりセットを作り希望する家族が持ち帰ることができるようにしています。
100位つくりますが、毎回40セットが引き取られていきます。(子ども食堂の中学版)



質問４：近年、不登校生徒が増加していますがB中学校はいかがですか？

回答： B中学校でも不登校生徒は増加しています。しかし、地域交流センターには、福祉まるごと相談室もあり、地域のサロンとして放課後は小学生や中学生、当中学を卒業した高校生などが遊びにきます。このように年代の違う生徒が集い、多様な問題を相談しやすい拠点としても活用しています。また、鈴鹿市でも導入されている「ほっとルーム」のような教室も作っており、地域の小学生（不登校児童）がB中学校の当該教室へ来ることもあります。

【考察】

✚ まず、公民館機能と中学校を併設したことは、今後の学校建築のモデル

になると感じた。

- ✚ 公民館内に、福祉相談窓口もあり、教育と福祉をつなぐことが出来る。
- ✚ また、自治会関係者のみならず、放課後は近隣の小学生や中学を卒業した高校生が自習などで集っており、中学在校生も地域の目を感じて学ぶことになる。このことが大変有効と考える。
- ✚ 公民館と学校とは、明確に区切られているが、その管理には曖昧さもあるようであり、事故や事件防止について、しっかりした決まりや確認が必要と感じた。
- ✚ 木材については、腰板として1,400m²使われているが。材積では40m³程度であり、多くない。(材料費としては40万円程度)
- ✚ 床は、外国産の合板となっており、杉の床を期待していたが違っていた。
- ✚ 中庭や図書館が開放的な吹き抜け空間に位置しており、解放された空間が生徒の気持ちも幾分和ませているように感じた。
- ✚ 壁は、腰板より上は全面コルク材であった。ピン等で資料をとめるのに役立つと感心した。

